



食品の安心安全な環境に貢献する包装資材のソリューション事業を展開するホリアキ株式会社。同社は、食品を中心とする梱包資材や機器の企画開発に、衛生用品や包装技術を応用した商品など、食品サプライのすべての領域にワンストップで最適な資材や機器を提供している。同社の情報システム部門では、被害の拡大するサイバー攻撃に備えるために、Sophos MDR Completeを導入してランサムウェア対策の強化と安全安心の監視体制を実現した。

## CUSTOMER-AT-A-GLANCE

**ホリアキ株式会社**

本社所在地 〒577-8537 大阪府東大阪市長田中3-6-8

設立 昭和29年10月8日

代表取締役社長 堀 隆

社員数 145名

WEBサイト <http://www.horiaki.co.jp>

ソフォスソリューションズ Sophos MDR Complete



ひとつもデメリットがないSophos MDR Completeならば、限られた情報システム部門の人員でも、安心できるセキュリティ対策を実現できると思います。

ホリアキ株式会社  
商品管理部 システム課 主任  
矢野 新太郎 氏

1948年(昭和23)12月に大阪市天王寺区で堀昭商店として創業したホリアキ株式会社。同社は、包装資材や包装機器を中心に、産業・農水産資材やギフト用包装用品などのデザイン企画や開発、製造、輸入並びに販売を手掛けている。「より良い社会づくりに貢献したい」「安全安心な食品環境に尽くしたい」という想いの実現に向け前進を続ける同社では、信頼できるITパートナーからの提案を高く評価して、Sophos MDR Completeによる24時間365日のセキュリティ監視体制を導入した。

## ビジネスチャレンジ

「世界的なサイバー攻撃の増加とランサムウェア対策が急務」

ホリアキ株式会社の情報システム部門が、Sophos MDR Completeを導入した背景について、商品管理部 システム課の矢野 新太郎 主任は次のように振り返る。「長年にわたり、社員が利用するPCにはエンドポイントセキュリティ製品を導入していませんが、世界的に増加しているサイバー攻撃には懸念していました。また、旧来

のセキュリティ対策では、ランサムウェアなどの被害を防ぐのが難しいという情報も気になっていました。当社はさまざまなお客様とのお取引があるので、サイバー攻撃にあつてご迷惑をかけるようなことがあつてはいけないと思い、セキュリティ対策の強化に取り組むことにしました」。

同社のシステム課では、サイバー攻撃への不安に加えて、従来のセキュリティ対策に対するもうひとつの課題があつた。その点について、矢野氏は「旧来のエンドポイントセキュリティ製品では、アラートがあがっても自動で処理してくれなかったもので、システム課のスタッフがそのPCを調べたり、マ

ルウェアが駆除されたかどうかを確認する必要がありました。中には『隔離はできたけれども駆除できなかった』というケースもあり、そういうときには手動で除去するかPCを初期化するか、といった対応にも追われていました」と説明する。

旧タイプのエンドポイントセキュリティ製品の後手に回る対策に、貴重なIT人材が労力を割かれていた情報システム部門では、世界的なサイバー攻撃の増加とランサムウェア対策が急務と考えて、セキュリティ対策の見直しに乗り出した。

## テクノロジーソリューション

「信頼できるITパートナーからの提案でSophos MDR Completeを導入」

セキュリティ対策の強化にあたり、システム部門では以前から取引のあるITパートナーで、Rising Star of the Year Award 2022を受賞するなど優れた実績のある株式会社ハイパーに相談した。矢野氏は「ハイパーからの提案は、Sophos MDR

Completeによる包括的なセキュリティ対策の強化でした。一般的なEDR製品は、監視カメラのような機能が中心で、検知には優れているけれども、駆除や隔離などの機能は弱い、という課題がありました。それに対して、Sophos MDR Completeの中に含まれるエンドポイントセキュリティ製品は、全世界で1億以上の稼働実績があり、これまでにランサムウェア被害にあつたことがない、という実績を聞いて安心しました。また、EDRの導入には、検知されたアラートに対処するためのSOC（セキュリティオペレーションセンター）が必要という説明も聞きました。そのSOCに該当する機能も、Sophos MDR Completeならば、すべてワンストップで対応しているので、運用の負担もコストも大きく軽減されると思いました」と話し、「ひとつもデメリットがないSophos MDR Completeへの切り替えならば、限られた情報システム部門の人員でも、安心できるセキュリティ対策を実現できると思い、採用を決めました」と選定の理由に触れる。

## ビジネスインパクト

「日本人スタッフによる対応と包括的なセキュリティ監視で安心を実感」

Sophos MDR Completeの導入は、社員が利用しているPCへのSophos Intercept X Advanced with XDRの導入からスタートした。約150台のPCに対して、古いエンドポイントセキュリティ製品をアンインストールして、Sophos Intercept X Advanced with XDRに更新した。作業の経緯について、矢野氏は「当社の基幹システムは、すべてクラウドで運用しているので、エンドポイントセキュリティの更新対象は、社員が利用しているPCが中心でした。社員には、古いエンドポイントセキュリティ製品のアンインストールと、Sophos Intercept X Advanced with XDRの導入方法を説明したドキュメントを配布して、個別に対応してもらいました。更新が完了してからは、Sophos MDR Completeによる包括的なPC上の脅威監視を開始しました」と話す。

Sophos MDR Completeによる監視とインシデント対応の効果について、矢野氏は「正直なところ、Sophos Intercept X Advanced with XDRの性能が優れているのか、導入から一年以上が経過していますが、まったく問題は発生していません。たまに、何かのマルウェアを発見して駆除したというレポートがあがってきますが、サイバー攻撃もランサムウェアによる被害もなく、安心してPCを利用できています」と評する。さらに「ソフォスのMDRサービスから送られてくるメールは、翻訳サイトで日本語にする手間はありますが、実用面で困ることはありません。また、インシデントが発生したときには、日本のスタッフもオンラインで参加してくれると聞いているので、特に対応に不安はありません」と矢野氏は補足する。

## フューチャービジョン

「Sophos製品へのさらなるワンストップサービスを期待」

今後に向けたセキュリティ対策について、矢野氏は「クラウドサービスの活用と、Sophos MDR Completeによって、当面の不安は払拭できたと安心しています。ただ、技術的に安全性は確保できても、社員がフィッシング詐欺メールを開いてしまうなど、人的なミスという心配は残ります。こうした不安を払拭していくためには、教育も必要だと考えています。ハイパーからは、Sophos Phish Threatという従業員向けのフィッシング攻撃シミュレーションとトレーニングの提案をもらっているので、前向きに検討していきたいです」と述べ、「セキュリティ対策にゴールはないと思っています。その意味では、今後も最新の脅威に関する情報と対策をハイパーやソフォスから提供してもらえたらと願っています」と期待を寄せる。

